

令和元年 久留米市政10大ニュース

1位は『東部地域に資生堂が進出決定 活発なオフィス誘致』
令和元年の久留米市政10大ニュースを、次のとおり発表します。

| 順位 | 項目 |
|----|---|
| 1 | 東部地域に資生堂が進出決定 活発なオフィス誘致 2022年に資生堂の工場が。市中心部にコールセンターなど5企業 |
| 2 | 久留米出身選手が世界を舞台に大活躍 柔道・素根輝選手、ラグビー・流大選手などが世界を舞台に |
| 3 | 豪雨 7月・8月と立て続けに 迅速な農業被害対応。大町町の災害ごみを受入れ |
| 4 | 未来志向でまちづくり制度を見直し 都市計画マスタープランや市街化調整区域の開発許可制度の見直し及び土地利用誘導方針の策定に着手 |
| 5 | 西部地域はイベント・祭りで大賑わい 城島酒蔵びらき、みづま祭の連携と広域化で拡大し大盛況 |
| 6 | 子育てしやすいまちへの新たな歩み 幼児教育・保育の無償化がスタート。送迎保育ステーションで待機児童解消へ前進 |
| 7 | 教育の環境整備にひと・モノ支援 ICT活用推進校4校にタブレット約180台。教職員にテレワーク導入 |
| 8 | 久留米の歴史と文化にトキメク 第九初演から100年。市美術館30万人突破 |
| 9 | 地域でひろがる！女性活躍の輪 第1回男女共同参画社会づくり表彰式を開催。市女性消防団が県女性消防操法大会で優勝 |
| 10 | 4年間の市民の代表が決まる 統一地方選挙で市議36人、県議5人が選出 |
| 次点 | ◎くるっぱゆるキャラグランプリ9位。悲願のトップ10入り ◎課題解決型の組織強化へ ◎ポイントで後押し。健康のびのびポイント事業開始 |

令和元年 久留米市政10大ニュース

【1位】

東部地域に資生堂進出決定 活発なオフィス誘致

～2022年に資生堂の工場が。市中心部にコールセンターなど5企業

平成31年1月に分譲開始した「久留米・うきは工業団地」に、(株)資生堂の進出が決定しました。同社としては初めての九州での生産拠点であり、投資額は約400～500億円、国内外向けのスキンケア製品の製造を主とし、IoTなど最先端技術を導入した工場となる予定です。

また、東証一部上場企業である製造派遣業大手「(株)アウトソーシング」、人材派遣業大手「パーソルテンプスタッフ(株)」、健康食品通販会社「(株)やずや」の子会社「(株)ワイズ・ヒューマン」など、中心市街地へオフィス企業が進出し、新たな雇用と人の流れが生まれています。

【2位】

久留米出身選手が世界を舞台に大活躍

～柔道・素根輝選手、ラグビー・流大選手などが世界を舞台に

南筑高校卒業の素根輝選手が、世界柔道選手権大会で金メダルを獲得するなど、数々の功績の積み重ねによって、競輪・中野浩一氏以来、33年ぶり2人目となる「スポーツ大賞」を受賞しました。また、11月の柔道グランドスラム大阪で金メダルを獲得し、東京五輪柔道日本代表の内定第1号になりました。

また、久留米市出身の流大選手が日本開催のラグビーワールドカップ2019に日本代表として全試合スタメンで出場。日本チーム初のベスト8進出に貢献しました。シティプラザ六角堂広場で開催したパブリックビューイングでは、3日間で延べ約3,000人が声援を送りました。

【3位】

豪雨7月・8月と立て続けに

～迅速な農業被害対応。大町町の災害ごみを受入れ

7月8月の記録的な大雨により中小河川が氾濫し、多くの家屋が浸水する大雨災害が発生しました。大雨特別警報も発表され3年連続の発表となりました。農作物や農業用施設等に甚大な被害が発生し、被害額は、農作物が13.5億円、農業用施設・機械が7.5

億円にもあがりました。市議会9月議会、臨時会で補正予算を計上し、早期の営農再開に向けた支援を行っています。

また、被災した床上床下浸水家屋の消毒も実施しました。浸水した家屋から排出された災害ごみの収集を行うとともに、災害ごみ受入れの手数料減免やクリーンセンターを臨時開場するなど迅速に対応。8月の豪雨において、被災した佐賀県大町町の災害ごみを宮ノ陣クリーンセンターで受け入れました。

【4位】

未来志向でまちづくり制度を見直し

～都市計画マスタープランや市街化調整区域の開発許可制度の見直し及び土地利用誘導方針の策定に着手

住みやすさ日本一のまちを実現するため、都市づくりプロジェクトの取組みとして「都市計画マスタープランの見直し」、「土地利用誘導方針の策定」のパブリックコメントを実施しました。また、人口減少や超高齢社会に対応した持続可能な都市構造への転換に向け、都市づくりプロジェクトで整理した土地利用の誘導方針を実現するため、位置的ポテンシャルの高い駅周辺の活性化等を視点とした「開発許可制度の見直し」に着手しました。

【5位】

西部地域はイベント・祭りで大賑わい

～城島酒蔵びらき、みづま祭の連携と広域化で拡大し大盛況

2月16日、17日に開催された「第25回城島酒蔵びらき」は、2日間で過去最高の12万人の来場者で賑わいました。新企画として「Kaki×SakeBAR」を開設し、長蛇の列が続くなど集客アップにつながりました。

また、11月2日、3日に開催された「第32回ふるさとみづま祭」は、恒例の地域の様々なパフォーマンスや県内外40チームによる「YOSAKOI みづま 2019」に加え、城島酒蔵びらき8蔵の酒の飲みくらべに近隣の市町のご当地グルメが集合した「8蔵の日本酒とうまかもん市」を同時に開催し、多くの来場者で賑わいました。

【6位】

子育てしやすいまちへの新たな歩み

～幼児教育・保育の無償化がスタート。送迎保育ステーションで待機児童解消へ前進

少子化対策として国が進めてきた幼児教育・保育の無償化が 10 月に開始しました。事前に事業者への説明会や市民への周知等を行い、スムーズなスタートを切りました。

また、待機児童対策として、江南保育園を拠点とした送迎保育ステーション事業を 4 月に開始、17 人が利用（11 月 1 日現在）。南西部の施設に入所するお子さんについて、バスで送迎保育ステーションと入所施設の間を送迎しています。

【7位】

教育の環境整備にひと・モノ支援

～ICT 活用推進校 4 校にタブレット約 180 台。教職員にテレワーク導入

小・中学校各 2 校において、先行的にタブレット端末を導入し、効果的な授業づくりを調査・研究し、公開授業を行いました。平成 28 年度に導入した認証システム機能を拡張することで、教職員が自宅から校務支援システムやファイル共有サーバーにアクセス可能なテレワーク環境を構築しました。

【8位】

久留米の歴史と文化にトキメク

～第九初演から 100 年。市美術館 30 万人突破

大正 8 年 12 月、久留米に収容されていたドイツ兵捕虜により、久留米高等女学校講堂でベートーヴェンの交響曲第 9 番の演奏が行われて今年で 100 周年の節目を迎え、シティプラザ展示室で関連資料を紹介する企画展を開催。また、12 月 28 日にザ・グランドホールで市民による大規模な記念演奏会が開催されます。

平成 28 年 11 月に開館した久留米市美術館本館の入館者数が、9 月に 30 万人を突破しました。開館以来、石橋財団からのご支援をいただきながら、多彩な展覧会を開催し、市内外の多くの方々にお越しいただきました。

【9位】

地域でひろがる！女性活躍の輪

～第 1 回男女共同参画社会づくり表彰式を開催。市女性消防団が県女性消防操法大会で優勝

性別に関わり無く個性や能力を発揮できる社会づくりに貢献した人や団体を表彰する「第 1 回男女共同参画社会づくり表彰」を実施しました。初の受賞者は、「市消防団有馬火消しはしご隊」と「津福校区まちづくり協議会」の 2 団体。性別にかかわらず活躍できる機会が提供されていることやまちづくりには多様な意見が必要であるという

意識が根付いていることなどが評価されました。8月に開催された福岡県女性消防操法大会で、久留米市消防団女性消防隊が見事優勝を果たしました。2大会連続3回目の優勝です。

【10位】

4年間の市民の代表が決まる

～統一地方選挙で市議36人、県議5人が選出

任期満了による福岡県知事選挙及び県議会議員一般選挙が執行され、投票率はそれぞれ45.28%（前回43.02%）と44.88%（前回42.87%）でした。

また、2週間後には久留米市議会議員一般選挙が行われ、定員が2名減の36名に対し、47人が立候補しました。投票率は過去最低の45.11%（前回48.55%）でした。視覚障害者にむけた点字・音声版の選挙公報を福岡点字図書館の協力により初めて発行しました。

<次点>

◎くるっぱゆるキャラグランプリ9位。悲願のトップ10入り

「ゆるキャラグランプリ2019」で、久留米市イメージキャラクター「くるっぱ」が9位になりました。久留米市のファンづくりと知名度向上のため、誕生以来7年連続でエントリー。“最後の挑戦”として応援隊の募集やテレビ出演など積極的な投票活動を実施し、悲願のトップ10入りを果たしました。

◎課題解決型の組織強化へ

喫緊の行政課題に的確に対応していくため、4月1日付で組織改正と人事異動を実施しました。防災対策課を総務部へ移管し、非常時の災害対策本部機能を強化し、防災対策担当部長のポストやe-市役所施策の更なる推進のために、e-市役所推進担当部長のポストを配置しました。また、東部・西部地域の振興や課題への対応、近隣・周辺自治体との連携強化を図るため、総合政策部に理事を配置しました。

平成31年4月1日より、久留米広域消防本部と大川市消防本部が統合し、4市2町を管轄する職員定数429人の体制となりました。

◎ポイントで後押し。健康のびのびポイント事業開始

市民の健康保持・増進を図るために、個人の健康づくり活動に対して特典を付与する「くるめ健康のびのびポイント事業」を40歳以上の市国保被保険者を対象に実証事業として10月から開始しました。（応募者数912人）